

令和元年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

1 日時 令和元年7月31日(水) 午前10時～午前11時30分

2 場所 青梅市役所 403会議室

3 出席委員

森田委員、加藤委員、小澤委員、茂原委員、徳武委員

4 議事

協議事項

(1) 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像について

(2) 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる事業案について

(配布資料)

資料1ー1 青梅市人口ビジョンの検証および今後の方向性に関する主な意見

資料1ー2 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証および今後の方向性に関する主な意見資料

資料2 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像

資料3 将来の青梅市のために実現に向け検討していく取り組み事業アイデア

・令和元年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録概要版(委員のみ)

| 発言者 | 会議のてん末・概要 |
|-----|--|
| 会長 | <p>(開会)</p> <p>令和元年度の第2回目の懇談会を開催させていただく。</p> <p>東京オリンピック開幕まで1年を切った。</p> <p>ニュースなどでは、新国立競技場や、他の新たに建設する競技場もできあがってきて、さらに機運の高まりを感じている。</p> <p>副市長からの御挨拶にあったとおり、総合戦略に向けて多くのアイデアが示されている。</p> <p>是非、皆様からも、それぞれの視点から多くのご発言をいただきたい。</p> <p>それでは次第の2、次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像について、事務局から説明をお願いしたい。</p> <p>2 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像について (次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像について、資料1-1、資料1-2および資料2を用いて説明)</p> <p>「次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像」について事務局から説明があった。御質問等あればお願いしたい。</p> |
| 会長 | <p>日本全体が人口が緩やかに減っている。中々それには逆らえない。今まで人口が増えていくことによってできた事業ができなくなってくる。では、何で補うかという と、選挙を見てもSNSというような手法で国民、若い人たちに呼びかけるということ で、票につなげたということが新聞記事などで見かけた。</p> <p>人に知らしめる方法とはそういうことなのかという気がしてならない。そこの整備 が遅れたり、手法を間違うと、市民の皆さんや市外に呼びかける時に後手になり はしないか。そこのところを充実させたらどうかと思う。</p> |
| 委員 | <p>資料を見て、内容的には全くこのとおりだなと思う。</p> <p>全国の商工会議所の会議や発表の機会に参加すると、これは日本中全ての市 町村がやっているが、ほとんど空振りになっている。</p> <p>横の連携がないという印象。発表の場は横の連携の場で、いろんな地方が発表 をし、情報交換の場になっているが、聞いたことを是非市長に聞かせたいとか、持 ち帰って検討したいというような具体的成果が出ている例はほとんどないと思う。</p> <p>それを考えると、別の取組みをした方がいいのではないか。例えばこの(懇談 会)メンバーを全員新しい発想ができる人に変えてみるとか、正攻法では扉があ かないところへ来てるなどと思う。</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>視点を変えるとか、1回キャラにして、もう1回考えてみるとか、相当厳しい状況にはある。</p> <p>いかに市民を巻き込むか、そしていかに若い人を巻き込むか。</p> <p>若い人は忙しく、またこちらの常識が通じない社会関係性を持っているというような感じなので、そういう人たちをコミュニティにつなげるのは難しいが、懇談会をキャラにして若い人を入れるとか、若い人のグループを呼んで意見をもらうとか、このような方向性を打ち出してみるのもいいのではないかな。</p> |
| 委員 | <p>選挙の話が出たが、投票率が上がらないというのがあり、政治に興味がないのかなど。選挙権が18歳以上になり、若い人の投票率に期待していたが、なぜこんなに少ないのかという結果だった。</p> <p>期日前投票をしてきて、まだネットで投票できないのかと思う。若者たちはネット社会なので、若い人集めて意見を聞くことも大事。この懇談会もそうだがネットを活用してみることも大事では。</p> <p>ネットの掲示板にはたくさんの書き込みがあつて、全てを信用できないが、そういう場をつくと若い人が入ってくるのではないかな。</p> |
| 委員 | <p>お客様への対応について、要求にはスピーディに答えていかないと受け入れてもらえないということがある。</p> <p>インターネットを通じて発信することが大事だと思う。とんがり事業のように、実現は難しいかもしれないが、このような意見が市役所の中から出てきて、協議されていることを発信して、市が真剣に取り組んでいるということを見せていくことが大事かと思う。</p> |
| 会長 | <p>考える材料として申し上げるが、消滅都市ということが言われ、危機感を煽って、そして人口減少社会が進み、お宅のまちが消滅してしまうかもしれないよという問題提起をされた。目指すべき方向性が3つ掲げられていて、定住人口を増やすことや、人口減少・高齢社会ならではのまちづくりも人口問題に引っかけている。減り方をどう少なくするかというのもあるが、減ることはもう推計に出ていること。人口が仮に減っていても、高齢化しても、やっぱり青梅はいい所だなということの方が、同じ努力するにしてもいいのではないかな。</p> <p>人口減少を止めるのは統計で出ているとおり無理なので、青梅市のこういう良いところがあるということをもっとやっていったらどうか。</p> <p>人口減少をどうにかしなければいけないということ以外のことを打ち出していてもいいのではないのでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>人口を増やすためにどうするかという会議をするより、まちの魅力をどうアップさ</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>せるか、あるいはどう伝えるかということをやった方がよい。結果として人口が増えたり、減少を食い止められるかもしれない。それは愛されるまちづくりであったり、生活しやすいまちづくりであったり、若い人が活躍できるまちづくりであったりする。</p> <p>とんがり事業はそういうアイデアの中で出てきていると思う。</p> |
| 委員 | <p>もしそういう方向性として、魅力的なまちづくりということで打ち出していくのであれば、若い人をつなぎとめるようなまちづくりをしなければならないし、イメージ作りやブランディングを前面に押し出せるような、奇抜な、先鋭的なアイデアを出していけばいいのではないかと思う。</p> |
| 会長 | <p>当初は国から5年計画で、人口減少を食い止めることに主眼をおいたもので日本全国そうだった。青梅もそうだが地方はもっと人口を増やすのは無理と言っている。5年経ってもうちちょっと魅力的な青梅市をつくって、その結果人口が増えればいいし、外部に発信もして、意見を拾っていけるのではないか。</p> <p>若い人はつながっているものが違うので、次の計画はそういうことを入れていかないと、前に進めないのではないかと思う。</p> |
| 委員 | <p>お聞きしたいが、資料3の出所はどこでしょうか。</p> |
| 会長 | <p>後ほど説明いただく予定だったが、先に説明をしてもらおうこととしたい。</p> |
| 事務局 | <p>「次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる事業案」について、資料3を用いて説明。</p> <p>(資料3の内容は、発案の段階であり、事業費用等の精査はしておらず、ブレインストーミング的にアイデアベースでの企画を庁内で、特に若い人から募集したものの。)</p> |
| 会長 | <p>この事業案にさらに何かを加えてみたり、更に新しいアイデアや、特にこれがいいということなど、御意見をお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>客観的にみると、観光・レジャー・スポーツが41ということで突出していることから、やはり青梅市の魅力はそういうところにあるのだと感じる。庁内の若い人を中心にということだが、これから若い人が住み続けたいということへ貴重な意見だと思う。</p> <p>子育てのところで気になるのは、会社で若い人たちに聞いたところ、お子さんを生んで最初の3か月が特にお母さんが苦勞する時期なので、その時期だけでも看護師さんとかがケアできる体制が必要とのことだったが、青梅市ではどうなって</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>いるか。</p> <p>現行の総合戦略にある政策パッケージの中で、子育て世代包括支援センターを立ち上げ、妊娠出産に不安を抱える方に寄り添って、出産・子育てに関する相談にワンストップで対応しているところ。乳幼児のお宅への訪問も全員に実施している。</p> |
| 委員 | <p>資料3に色々な意見があって、このようにたくさんの意見がでることは、良いことと思う。市民の方の意見は、また違う切り口になるかと思うし、その意見が反映されるということであれば、意見を出す側の人もやりがいがあると思う。</p> <p>市の若い職員の方が意見を挙げて、検討された結果、実現すればすごくいいこと。</p> <p>実現するときに市民の意見も聞いて、どれかのアイデアに賛成するという人も沢山いると思うので、切り口としてとんがり事業というのはとても良いと思う。</p> |
| 委員 | <p>10番のこども医療センターをつくろうということだが、都内でも小児科を専門にするところが減ってきているようで、子どもを持つ親御さんには心配なこと。こういう拠点ができればとても安心で、素晴らしいこと。</p> <p>6番にあるような保育事業も、病院を拠点に子どもが病気になった時に、そこへ預けて仕事に行けるといとか、そういう病気の子供を預かるNPOもある。女性が仕事を続けるにはとても大事なことで、そういうことが市の体制でできれば素晴らしいことと思う。</p> |
| 委員 | <p>教育のことだが、7番のグローバル人財の育成ということで、できる子を伸ばすのはとても大事なことで、それと共に教育都市ということであればボトムアップという両面があると教育の価値が上がる。</p> <p>算数のできる子が少なくなってきていて、就職活動の時にSPIのような試験が受けられない。読み書きそろばんというような基礎を青梅市はきちんと教えているというボトムアップと、少数精鋭と両方できるといいかなと思う。</p> |
| 会長 | <p>今事務局に確認して、資料3はいろんな前提条件なしで意見を出してもらったものなので、できるできないは別だが、SNS等を通じて一般市民の意見を聞くことについては今後も考えていただけるとのことですので、御承知ください。</p> |
| 会長 | <p>多摩川と御岳山は大事な資産。何かせつかくある多摩川と御岳山をもっとうまく使えないかと思う。他の地域の人から見れば、多摩川を持っていて、御岳山があるから青梅はいいよねと、うらやましく思う人もいると思う。</p> <p>もうちょっと長期的に考えて青梅市の資産を生かした事業を、1、2年じゃできな</p> |

| | |
|----|--|
| | いことでも目標を定めて、それを外に発信していけばいいのではないか。 |
| 委員 | ドローンパークというアイデアはとてもいい。 積極的に誘致して、先駆的にドローンのまちになればいいと思う。 地域資源を生かしたという方向性があるが、青梅市には山も川も神社仏閣もあるので、レジャー・観光のパッケージを作ってみると良いと思う。 |
| 会長 | 青梅市に居る人は、それがあたりまえになっているが、外から見るとすごいこと。 |
| 委員 | 都内にいてこれだけ自然環境が整っているのは、うらやましがられると思う。 |
| 委員 | 山に登るときは駐車場がないと中々登れない。道の駅と駐車場があると、そこから登ることができる。 埼玉側に行く場合、駐車場からバスで送り届けてくれて、車の所に戻ってくるというのも一つのアイデアだと思う。 |
| 会長 | 比較的短期でできそうなものとか、長期的なものとか、分けていっていただきたい。 先ほど病院のことに触れていただいたが、専門の科があると青梅市だけでなく近隣の人も助かる。子どものことって一番緊急を要するので、いいのではないか。 |
| 委員 | 埼玉県からも来るのではないか。秩父市では、子どもが産めないと言っている方もいる。産婦人科がなくて群馬県に言ったと聞いたこともある。 |
| 委員 | マザーズハローワークというのがあって、都内のいろんな方が来る場合もありますが、安心して子供が育てられるところをクチコミで聞いてくる。そこを青梅市が発信することが大事。病院がしっかりあることは第一条件になるので、外に向けてアピールしたらどうか。 |
| 会長 | 10番の内容はぜひ実現していただきたいもの。 |
| 委員 | 発信ということであれば、専任のスポークスマンを設置して、若い人にもそうでない人にもアピールできるようになるといい。うまくイメージを作って戦略を立ててやっていただける専任の方がいるといいかもしれない。 |
| 会長 | いかに発信を外にして、青梅をいいなと思ってもらうことが大事。人が減っている中で、青梅の良さをPRしてほしい。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>先ほど多摩川と御岳山は大きな資産とおっしゃった。首都大学東京では学生に教えるだけではなくて都民に課外講座を開いているが、そこに御岳山が入っていた。そこでは御岳山に連れてきて、宿坊に泊まり、日本の神事の説明や、御岳山のことだけではなくて日本人にとって神様感とはどういうものかなどの説明をしてくれる。翌日は御岳山周辺を散策する。神の山なので説明することは沢山ある。いいところだからいらっしゃいだけではなく、知的好奇心を刺激することができる山だと思う。</p> <p>そういう知的好奇心を持っている方々は、年配の方々の中でも特に素晴らしい方々だった。</p> |
| 委員 | <p>おくたま路で1泊で研修を行った。翌朝御岳山へのハイキングを募集したら、たくさん応募があった。機会を与えると来てくれるかと思った。</p> <p>そのような機会を与えることも大事かと思う。聞いてみると行ってみたいところだったと聞いた。</p> |
| 委員 | <p>お祓いしてもらおうとお札がもらえる。紙一枚と思うと高いが、ちゃんと説明を聞いてお札をもらおうと、お金では買えない価値を感じてもらえる。</p> |
| 委員 | <p>御岳山は犬の神様ということで、ケーブルカーも犬を連れて行ったり、散歩がてら山の上を歩いたり、そういうことも周知したらいいのではないかな。</p> |
| 委員 | <p>とんがり事業の名称の意味はどのようなものか。</p> |
| 事務局 | <p>行政ではあまり使わない言葉。</p> <p>先鋭的な事業ということもあり、新しく若手を始めとして今までと違った視点で事業を発案していく必要があるのではないかと感じ、我々も行政としては普段使わない言葉ということで仮称だがとんがり事業と付けさせていただいた。</p> <p>懇談会からも御意見あったように、思い切ったことをやっていくということも、この言葉の意味に含まれている。</p> |
| 会長 | <p>資料2の左下に新規事業とあるが、こちらについての意見などはいかがか。</p> |
| 委員 | <p>資料2の青梅市人口ビジョンは40年先の展望となっている。</p> <p>公共交通機関について、今モノレールが箱根ヶ崎まで延長の話があるが、40年先ということであれば、モノレールを青梅市まで伸ばすということが目標にあってもいいのではないかなと思う。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | 青梅市も多摩都市モノレール延伸に関する同盟に参加しており、国の審議会の中で長期的な構想が練られ瑞穂町まで延伸の話がある。 |
| 委員 | せっかくたくさんの良いアイデアが出ているので、最大限次期計画の新規事業に入れられるようにしていただければと思う。 |
| 委員 | 人口が減っていく中でも、減りを少なくするためには働く場が必要と思うので、青梅市を中心とした、企業誘致を引き続きやっていく必要があると思う。人口が減りやすすくないところは有効求人倍率が高い。企業に居続けていただくことも大事。 |
| 委員 | 青梅の特徴を生かして、他の自治体でやっていないこと、青梅市が何かの聖地になっていけるといいと思う。 |
| 委員 | 青梅は古いまちなので、小さいお祭りがいっぱいある。これらは存続の危機にある。お祭り連合会みたいなものをつくって、そこで問題をみんなで考えたり励まし合える組織があるといいと思う。 |
| 会長 | 本日の協議事項は、以上とさせていただきます。 本日発言のあった点については、次期戦略の策定に向け、事務局にて対応をお願いします。 最後にその他について何かあればお願いしたい。 |
| 事務局 | 次回の懇談会は、10月初旬頃を予定している。 委員の皆様には、日程調整に御協力をお願いしたい。 本日の会議録について、用意でき次第、委員の皆様にお送りするので、内容の御確認をお願いしたい。 |
| 会長 | 以上で本日の議事はすべて終了した。 以上をもって、令和元年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とする。 (閉会) |